

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 岐阜各務野高等学校 学校運営協議会（第2回）

2 開催日時 令和5年10月25日（水）13:30～15:30

3 開催場所 岐阜県立岐阜各務野高等学校 大会議室

4 参加者

会長	苅谷 亜由美	各務原市立鵜沼第二小学校 校長	
副会長	高島 邦枝	各務原商工会議所総務事業課 課長	
委員	卯野 仁志	元各務原区長	
	清水 宥希	保護者代表	(欠席)
	長縄 康浩	フェニックス総合クリニック 副院長	
	並河 征之	株式会社 日本温浴研究所	
	林 克幸	サン・ビジョンジョイフル各務原施設長	
	山口 貴江	鵜沼西保育所 園長	
	土屋 喜寛	令和5年度PTA会長	
	馬場 崇光	令和5年度PTA副会長	
学校側	野田 正明	校長	
	浅井 智世	教頭	
	佐々木善隆	総務部長	
	鈴木 雅雄	教務部長	
	丹羽 智之	生徒支援部長	
	鹿野 知幸	進路支援部長	
	秋田 寛	ビジネス科主任	
	後藤 誠司	情報科主任	
	石樽 裕加	福祉科主任	
	児玉 智紀	教務部記録係	

5 会議の概要(協議事項)

(1) 生徒を対象とするアンケート結果、保護者・学校運営協議会委員を対象とするアンケート結果について

意見 1:アンケート評価について、絶対的評価でなく、相対的評価の方が良いのではないかと。数字が低いから問題というわけでない。数字だけでは計れないのではないかと。他校アンケートとの比較はできないかと。

⇒他校もホームページにてアンケート結果を公表している。今後、比較も考える。

- 意見 2:ポイントの下がったアンケート項目について、なぜこんなに下がったのか、しっかり分析してほしい。
- 意見 3:学校運営協議会委員がアンケートに答えるのが難しい項目がある。「学校だより」などを付けていただけると状況が分かり答えやすい。
- 意見 4:昔の自分の高校生時代とは違う印象である。働き方改革の中、先生たちも大変である。
- 意見 5:アンケート項目の▲が増えているのが気になる。全学年なのか、1年生が加わったためなのか。学年ごとの違いも知りたい。
- 意見 6:項目番号35について、我々は見えているが、生徒や保護者は見えていないかもしれないのでアピールしてほしい。
- 意見 7:アンケートの数字が気になる。普段意識していないことを聞かれてもなかなか答えられない。
- 意見 8:学科ごと、学年ごとで分けて分析してみてもどうか。
- 意見 9:教員の働き方改革については分からないため、教員向けのアンケートもやってみようか。
- 意見10:アンケートは見方によって変わるため、気になるところはまず実践してみて、また来年に向け精査して改善していくことが大切である。
- 意見11:勤め先に、安全推進委員会というものがあるが、数字をどう改善するか悩む。本校のアンケート項目の低い部分に関しては、改善のために協力したい。

(2) 各学科の取組状況、3学科合同企画の取組状況について

- 意見 1:登校の際、挨拶をしてくれる生徒も多く、気分が良い。生徒が実習に来てくれており、頑張っている。
- 意見 2:いろいろな学科でいろいろな学びができるため、それを生かした学校運営でたくましく育てほしい。
- 意見 3:ポロシャツの商品開発に関して、クラウドファンディング「マクアケ」の結果はどうだったか。物を作って売る機会はなかなかないのでよい学びである。
⇒1枚9,100円と高めだが、10名の方が購入してくださった。
- 意見 4:情報科の「全タメ」は地域とのつながりを感じられ、生徒の一生懸命説明する姿が良かった。
- 意見 5:福祉科の介護実習は、現場での実践が重要なため、コロナ禍後となり、今できているのが良い。
- 意見 6:3学科合同の企画は本校だからこそできる。引き続き注目したい。また、商工会議所の青年部と本校でコラボした企画をお願いしたい。
- 意見 7:自分のやったものが形になることが、生徒の今後の生きる力につながる。また、生徒同士が関わって活動できていることが良い。
- 意見 8:福祉科の実習について、自分は社会に生きる人間だということを自覚した上で、何かやってみたいことを明らかにして実習に向かうことが大切である。
- 意見 9:3科合同の取組について、何か悩んでいることを課題として、社会に生きることをやってほしい。
- 意見10:地域代表として、夏まつりにビジネス科の生徒が参加してくれたことで準備から販売まで大変助かったし、まつりの雰囲気も良くなったので感謝したい。
- 意見11:昨年度に引き続き各科の取組は先進的な取組で面白い。情報科の日比野克彦氏のプロジェクトは生徒の心に一生残るものである。福祉科の実習は利用者目線で見てしまうが、協力していきたい。
- 意見12:各務原特別支援学校ができるのに伴い、2025年学童や交流施設を空き地に建設予定である。日常生活レベルで交流できたら良いと感じるため、また相談させてほしい。

意見13:ビジネス科のマーケティングフィールドと連携しているが、右肩上がりの学校だと感じている。しかし、こんなにすごい学校、施設なのに定員に満たない科があるのはなぜか。しっかりアンケートを分析してほしい。

意見14:本校の特性を生かして、先生方は真摯に取り組んでいる。いろいろな分野の人が交わって社会は作られているから、本校での学習は良い勉強になっているはずなので続けてほしい。

意見15:情報科の授業は、人生のプロデュースにつながるもので、終活など各務原市のプロジェクトとリンクするところがある。連携してやっていると良い。

意見16:ビジネス科は「作って販売する」という実践、情報科は業界で活躍する人との機会が多く将来につながる実践、福祉は介護実習と、経験が可能性に変わるという場が多い。これからも増やしてほしい。

意見17:職場体験などは非常に有益である。本校でも自分の知らない科を知ることは大切であるので積極的に交流してほしい。

(3) 生徒支援部の取組、3年生の進路状況、部活動の主な成績について

意見 1:自転車通学について、ヘルメット着用者が少ない。習慣づけるよう指導をお願いしたい。また、さびたチェーンの自転車に乗っている生徒もいるため、整備もしっかりしてほしい。物を正しく使うことを教えてほしい。

意見 2:スクールカウンセラーは常駐しているか。1人でも常駐していると良い。

⇒県に登録している方が月に数回来てくださる。心の不安を抱える生徒も多くなっているので常に相談できると良いが常駐は難しい現状である。

意見 3:本校の進学率は80%近くということだが、なんとなく進学でなく、前向きな進学であってほしい。

意見 4:部活動の時間と学科の学びとの兼ね合いが難しいが、融通を利かせて行ってほしい。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、生徒、保護者・学校運営協議会委員を対象とするアンケート結果についてと各学科、分掌からの取組状況の中間報告を行った。5月から7月までの学校運営の推進状況についてまとめた冊子を事前に渡し、さらに今回の協議会で、これまでの推進状況について説明を行ったことで、学校の取組について理解が得られた。

今回、各委員からいただいた意見を基に、後期の学校運営に生かしていく。